

事務事業チェックシート

事務事業No 138 事業名 環境マネジメントシステム推進事業

分野別目標	4	自然環境と都市基盤が調和した快適なまち
政策	4	自然環境・資源循環型社会の形成
施策	3	地球環境の保全
基本方針	1	地球温暖化対策の推進

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間	～	
事業実施の根拠法令		
関連個別計画	環境基本計画	
担当課・担当課長 (Tel)	環境政策課	東山 雅彦(435-1114)
関連課		

〔事業基本情報〕

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計	一般会計	
	款	衛生費	
	項	環境保全費	
	目	環境保全政策費	
	大事業	環境保全政策事業	
事項	環境マネジメントシステム推進事業		

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
		○		
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	環境基本計画や地球温暖化対策実行計画等の目標や主要施策について、PDCAサイクルを用いて進捗管理を行うことで、目標達成を図る。	各種研修や内部監査等を効果的に実施し、職員の環境マネジメントシステムに関する意識と能力の向上を図る。 新規採用研修（年1回）、環境管理推進員研修（年1回） 内部監査の被監査課研修（年1回） 内部監査（年1回）、システムの見直し 市内事業所への環境マネジメントシステム（EA21など）導入促進のための情報提供や支援				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		和歌山市環境マネジメントシステムの推進。 事業所への環境マネジメントシステム導入促進。	和歌山市環境マネジメントシステムの推進。 事業所への環境マネジメントシステム導入促進。	和歌山市環境マネジメントシステムの推進。 事業所への環境マネジメントシステム導入促進。	和歌山市環境マネジメントシステムの推進。 事業所への環境マネジメントシステム導入促進。	和歌山市環境マネジメントシステムの推進。 事業所への環境マネジメントシステム導入促進。

2 事業コスト

事業費等 千円		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	430	329	480	364	390		390		390		
	伸び率 (%)	-	-	11.6%		-18.8%		0.0%		0.0%		
	人件費	常勤職員		5,493	5,420	6,317	4,602		4,602		4,602	
		非常勤職員		121								
		小計		5,614	5,420	6,317	4,602		4,602		4,602	
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
	その他											
	一般財源（税等）	430	329	480	364	390		390		390		
所要人数	常勤職員		0.72	0.71	0.85	0.56		0.56		0.56		
	非常勤職員		0.06									
主な予算内訳		報償金84千円、管外出張旅費53千円、EMSサポート委託料216千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況					平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	各種研修実施回数	年度目標値				5	5	5	5	5
		実績値				7	7			
	単位	回	全体目標値	5	全体目標達成度	140.0%	140.0%			
	内部監査実施回数	年度目標値				1	1	1	1	1
		実績値				1	1			
単位	回	全体目標値	1	全体目標達成度	100.0%	100.0%				
成果指標	内部監査での不適合件数					年度目標値	0	0	0	0
						実績値	0	0		
	単位	件	全体目標値	0	全体目標達成度	100.0%	100.0%			
						年度目標値				
					実績値					
単位		全体目標値		全体目標達成度						

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	環境マネジメントシステムの効果的な運用のため、引き続き環境に配慮した事務・事業を推進する必要がある
「見直し」 「改善」案	